

医心 伝心

富山県医師会と 関連団体について

県医副会長 藤田 一

令和7年6月から、再び富山県医師会の役員をさせていただくことになりました。これまで、高岡市医師会と県医師会の役員を2回ずつ務め、県医師会の関連団体の役員も兼ねてきましたので、ある程度医師会の活動について理解できるようになりました。私自身、医師会に入会した当初は、医師会のことがよくわからなかったので、皆様が既にご存じのことも多いと思いますが、少し医師会とその関連団体についてお伝えしたいと思います。

まず、医師会は学術専門団体であるということです。このことは日本医師会のWebサイトにも明確に記載されています。そして、日本医学会は日本医師会の中の学術組織と位置付けられています。

医師会は、郡市区医師会、都道府県医師会、日本医師会の3層構造になっています。このうち地域住民や医療現場に最も近いのが郡市区医師会です。医師会の仕事として、行政との関連するものが多く、郡市医師会は各市町村と、富山県医師会は富山県と、日本医師会は国と連携しています。

富山県医師会の会員数は令和7年8月1日現在で1,678人、その内訳としては、開業医などのA会員が685人、勤務医や研修医などのB会員が872人で、徐々に勤務医の割合が増えてきています。事業は多岐に渡り、学術に関するものとして富山県医学会や各種研修会を開催しています。富山県との関連では、医療計画や地域医療構想などに関わっています。また、特定健診や特定保健指導の集合契約、予防接種の広域化など複数の郡市にまたがることを行っています。月2回の県医師会理事会では、地域の住民の健康を守ること、会員の

皆様のためになることを基本として、真摯な話し合いが行われています。県医師会の事業に関しては、会員の先生方や各郡市医師会にお世話になることが多いですが、これからもご協力をお願いいたします。また、いろいろなご意見やご要望などもお寄せください。

富山県医師会の会員のメリットとして、関連団体を利用できることがあります。現在、関連団体としては、金融業務を行う富山県医師信用組合、各種保険・購買・開業支援などを行う富山県医師協同組合、国民健康保険業務を行う富山県医師国保組合があります。医師信用組合や医師協同組合は、利益を追求する一般企業とは異なり組合員のために運営されています。医師信用組合は今年60周年を迎え、その記念として令和7年12月30日まで、融資金利据え置きキャンペーンを行っています。一方、医師協同組合にはグループ生命保険など全国規模で取り扱っているものがあり、スケールメリットを活かして、良い条件を提供しています。両組合とも様々な分野で一般企業以上のサービスを提供できると思いますので、ぜひ他と比較していただき、勤務医の皆様を含めて、積極的に利用していただきたいと考えています。医師国保組合は、組合員数の減少や高齢化、医薬品の高価格化など、事業上の課題を抱えていますが、市町村国保に比べて組合員のメリットを維持できるように努力しています。

これからも、県医師会とその関連団体を応援していただければ幸いです。